

横浜市一般廃棄物処理基本計画

(原案)

説明資料

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER

YOKOHAMA

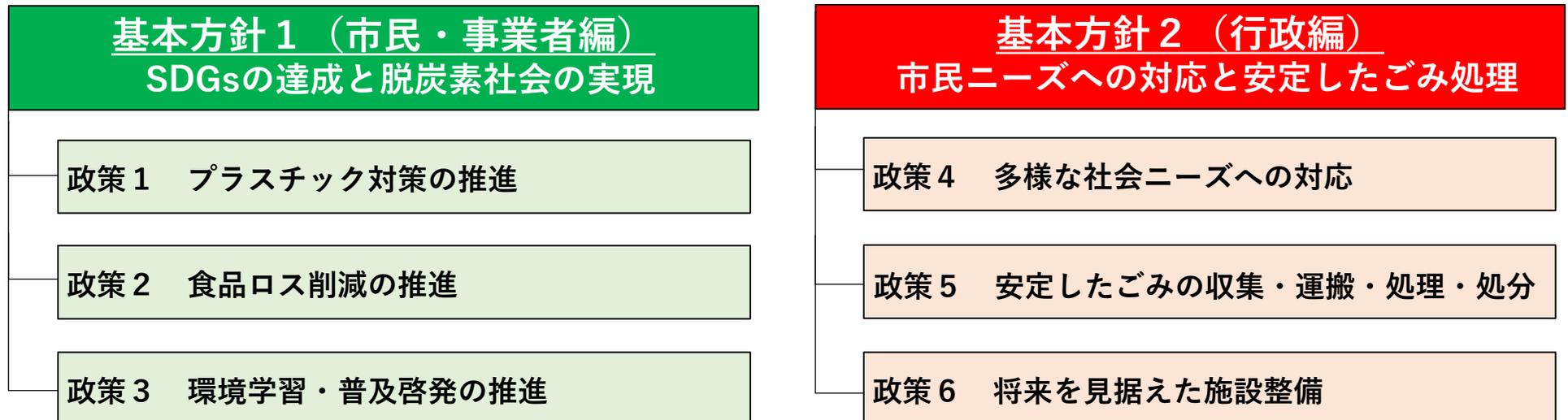
1	素案の概要	…	P. 3
2	原案策定までの過程	…	P. 5
3	原案における修正	…	P. 7
4	計画名称	…	P.16
5	今後の予定	…	P.18

1 素案の概要

1 素案の概要

- G30、3R夢に続く**廃棄物分野の法定計画**
- 温室効果ガス半減目標を掲げる**2030年度までの計画期間**
- 目標は燃やすごみに含まれる**プラスチックごみを2万トン削減**
(市民1人あたりに換算すると5.3kg削減)

【参考】計画の体系図（**2つの基本方針と6つの政策**で構成）



2 原案策定までの過程

2 原案策定までの過程

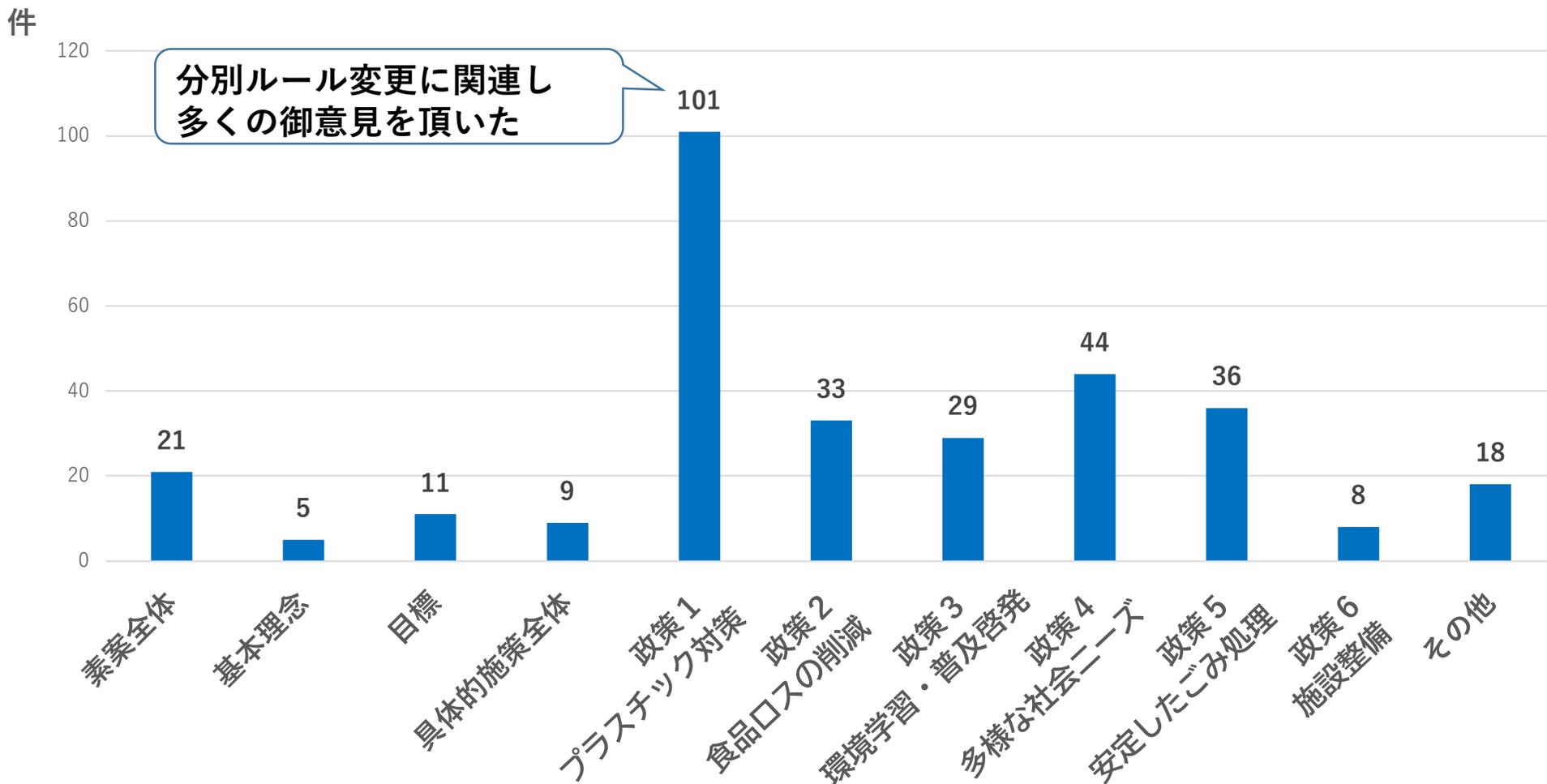
- 9月13日 計画素案の報告（第3回定例会 常任委員会）
- 10月12日 パブリックコメントの開始（P.8～13）
- 10月23日 横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会の開催（P.14）
- 11月10日 パブリックコメントの終了
- 12月18日 計画原案の報告 本日

3 原案における修正

3-1 パブリックコメントの結果①

○ 実施期間：10月12日（木）から11月10日（金）まで

○ 意見総数：315件（人数：194名）【参考】G30：207件（77人）／3R夢：176件（49人）



3-1 パブリックコメントの結果②

○ 主な意見の抜粋

【政策1 プラスチック対策の推進】

- ・ 分別・リサイクルの拡大は脱炭素社会実現のための大きな一歩になると思う。
- ・ リサイクルよりもリデュースを進めることが重要である。

【政策4 多様な社会ニーズへの対応】

- ・ 高齢化に伴うごみ出し課題への対応も必要と思う。

【政策5 安定したごみの収集・運搬・処理・処分】

- ・ 安定したごみ収集が重要である。

分類	対応	件数(件)	割合(%)
修正	御意見をふまえ素案を修正するもの	7	2
包含・賛同	御意見の趣旨が計画の内容に含まれている、または計画の内容に賛同する趣旨のもの	81	26
参考	計画の推進にあたり参考とするもの	191	61
その他	上記に含まれないもの	36	11
合計		315	100

3-1 パブリックコメントを受けた修正①

○ 基本理念について（1件）

- ・ 市民・事業者・行政の計画であるため、「市民・事業者の皆様と共に考え」という表現は、「市民・事業者・行政が共に考え」に変更すべきではないか。

⇒ 基本理念に「行政」を追加 【原案：P.15】

将来にわたってごみの処理を安定的に継続していくとともに、SDGsの達成はもちろん、脱炭素社会の実現や循環経済の移行に向け、果敢に挑戦していきます。

さらに、ごみの処理を通じて、環境、経済、社会的な課題解決に向け、市民・事業者・**行政**が共に考え、取り組んでいくことで誰もが快適に暮らし、将来世代に良好な環境を引き継いでいきます。

3-1 パブリックコメントを受けた修正②

○ 目標について（2件）

- ・ 2022年度のプラスチックごみ量の記述が無いため、2万トン削減の目標がわかりにくい。
- ・ 廃プラスチックの全量資源化に向けて、どの段階にあるかを把握するため、現状値について明示してもらいたい。

⇒ 2022年度の現状値として以下を追加 【原案：P16】

プラスチックや合成繊維など石油由来のごみの焼却量：約14万トン
(2022年度)

3-1 パブリックコメントを受けた修正③

○ 用語解説について（2件）

- ・ SDGsや脱炭素社会、循環経済など専門用語を使い抽象的でわかりにくい。もう少し平易な言葉にした方が共感できると思う。

⇒ 以下の用語に関する注釈を追加。

SDGs【原案：P.1】／循環経済【原案：P.12】／フードシェアリング【原案：P.27】／
チャットボット【原案：P.33】／AI【原案：P.33】／IoT【原案：P.33】／
ESCO事業【原案：P.41】

- ・ 分別協力率の算出根拠が知りたい。

⇒ 算出式についての注釈を追加 【原案：P.7】

3-1 パブリックコメントを受けた修正④

- 政策5 安定したごみの収集・運搬・処理・処分（2件）
 - ・ 家庭ごみと同様に、事業系ごみも適正処理だけでなく、適正排出の推進にも取り組むべき。
 - ・ 政策5に「適正排出の推進」を追加してもらいたい。

⇒ 「政策5 事業系ごみの適正処理」の具体的取組に「分別排出や3Rについての周知・啓発」を追加。【原案：P.38】

素案) 立入調査等の機会を通じた周知・啓発

原案) 立入調査等の機会を通じた分別排出や3Rについての周知・啓発

3 - 2 審議会を受けた修正

○ 政策3 環境学習・普及啓発の推進

- ・ 中高生から大学生の世代やNPOやNGO等の市民活動団体との連携についても検討していただきたい。

⇒ 具体的取組の項目に多様な主体との連携を新規で追加 【原案：P.29】

○ 政策4 多様な社会ニーズへの対応

- ・ 最近のオーバーツーリズムの問題など、来街者向けのごみ対策をどのように考えていくのかについて、事業者の立場では課題と感じている。

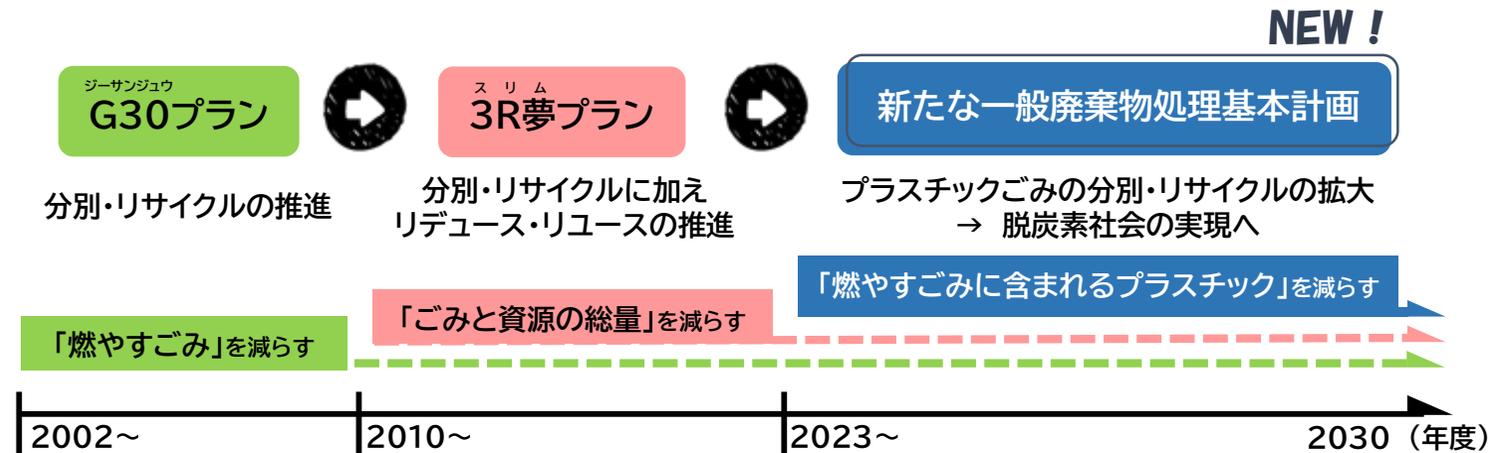
⇒ 具体的取組として来街者向けに事業者と連携した取組を追加 【原案：P.32】

来街者へ向けたポイ捨て防止の啓発や事業者と連携した取組の実施

3-3 その他の修正

○ 「ごみと資源の総量」の削減の継続について 【原案：P.17】

- ⇒ 環境負荷やごみ処理コストの低減に向け、これまでの計画で目標とした「ごみと資源の総量」について、引き続き、削減を目指していきます。
そこで、市民・事業者の皆様に分かりやすく伝えていくために、下の概念図を追加しています。



※ その他にも分かりやすい表現となるように微細な修正等を実施。

4 計画名称

4 計画名称

名称：ヨコハマ プラ5.3計画

今回の計画では、温室効果ガスの発生を抑制し、脱炭素社会の実現に貢献していくことを目的として、燃やすごみに含まれるプラスチックごみの2万トン削減を目標としています。

目標達成には、市民1人あたりで換算すると5.3kg削減していく必要があることから、名称に「5.3」を含めています。

「5.3」は「**ごみ**」と読み、市民・事業者・行政がプラごみ削減に向けて協働し、将来世代に良好な環境を引き継いでいくことを目指しています。

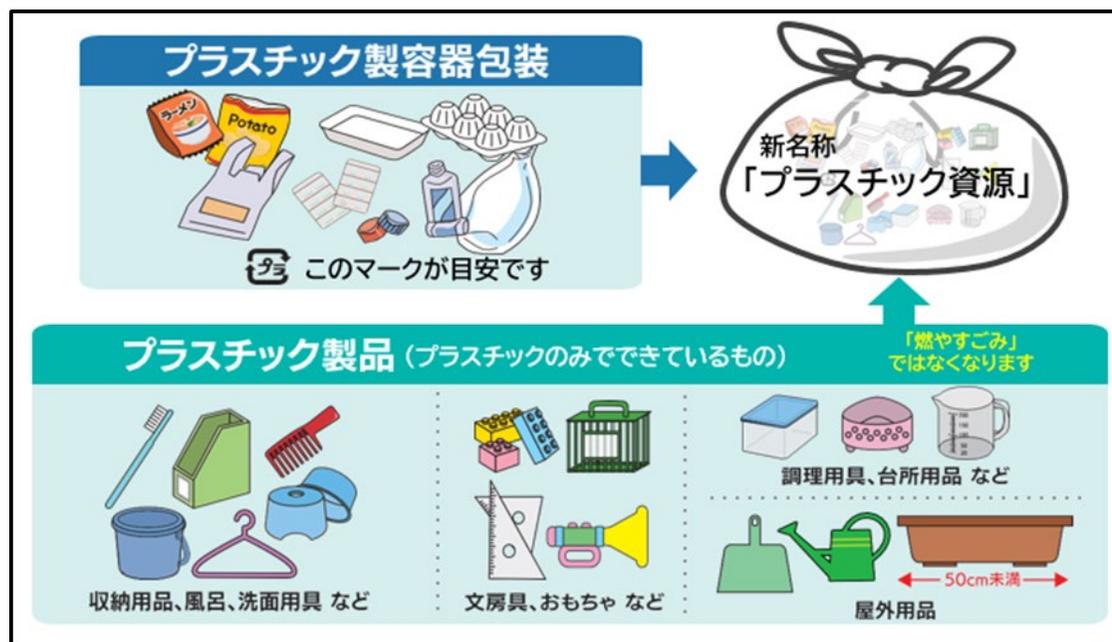


ロゴマーク

5 今後の予定

5 今後の予定

- 令和6年1月 新計画の開始（順次、広報周知を実施）
- 令和6年10月 分別・リサイクル拡大を9区で先行実施
※ 中区、港南区、旭区、磯子区、金沢区、戸塚区、栄区、泉区、瀬谷区
- 令和7年4月 分別・リサイクル拡大を全市実施



プラスチック資源として分別区分を新設
【プラスチック製容器包装とプラスチック製品】